

平成 20、21 年度
中期目標の達成状況報告書
(別添資料)

平成 22 年 6 月

国立大学法人
東京工業大学

目 次

資料 1	教育推進室複合領域コース運営専門委員会報告書（抜粋）・・・	1
資料 2	「アジア人財資金構想」実施計画・・・・・・・・・・・・・・・・	3
資料 3	アジア人財インターンシップ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
資料 4	価値創造インターンシップ・・・・・・・・・・・・・・・・	3
資料 5	インターンシップシンポジウム・・・・・・・・・・・・・・・・	4
資料 6	博士一貫教育プログラム評価検討会及び講演会・・・・・・・・	4
資料 7	21 世紀 COE プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・	5
資料 8	グローバル COE プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・	5
資料 9	環境エネルギー機構・・・・・・・・・・・・・・・・	6
資料 10	環境エネルギー機構発足記念講演会・・・・・・・・	6
【不開示】資料 11	Start-up Station 資料・・・・・・・・	7
資料 12	総合プロジェクト支援センター構想概要・・・・・・・・	8
資料 13	新統合研究院の組織イメージ・・・・・・・・	8
資料 14	科学研究費補助金制度に関する説明会開催案内・・・・・・・・	9
資料 15	社会人教育院講座・プログラム・・・・・・・・	11
資料 16	電子ジャーナルバックファイルの契約状況・・・・・・・・	11
資料 17	図書館開館時間延長実績・・・・・・・・	12
資料 18	図書館サポーター・・・・・・・・	12
資料 19	附属図書館に配架された教員の著書一覧・・・・・・・・	13
資料 20	新附属図書館の概要・・・・・・・・	14

報告書

平成 18 年度～平成 19 年度にかけて四大学連合複合領域コースの志願者数が
急激に減少したことについて

複合領域コース運営専門委員会主査
武藤 滋夫

四大学連合複合領域コースへの東京工業大学（以下、本学）の志願者数が、平成 18 年度 182 名から平成 19 年度 106 名へと 76 名減少したことについて、複合領域コース運営専門委員会においてその原因及びそれに対する対策について検討いたしました。その結果を報告いたします。

(1) 調査方法

まず、平成 21 年 10 月 14 日に複合領域コース各コース主査出席のもと、現在複合領域コースのうち履修者の数が多い総合生命科学コースおよび文理総合コースに所属している学生と約 1 時間の対話集会を持ち、学生からの意見聴取を行った。次いで、平成 19 年度に急激に志願者が減少した 4 コースについて、各コース主査がコース所属学生に聞き取り調査を行った。

(2) 調査結果とその分析

学生から寄せられた主な意見は以下のとおりである。

- A 平成 18 年度には、他大学での履修と本学の所属学科での科目履修の両立の大変さをよく考えずに履修申告をしたものが見受けられた。
 - B 平成 19 年度の説明会において、「複合領域コースの履修は大変であり、強い意志を持って所属するように」との説明が説明者からあり、それを聞いて履修をあきらめた学生が見受けられた。
 - C 平成 19 年度から英語のカリキュラムが変更になった。また、学科においてもカリキュラムが変更になったところがあり、それが複合領域コース履修の妨げになった。
 - D 四大学連合の新規性が薄れたことにより学生の関心が薄れた。
 - E 高校の新課程（ゆとり教育）の第一世代が平成 19 年度新規所属の世代である。
- 以下、一つ一つ検討していくこととする。

- 1) 項目 A, B
- 2) 項目 C
- 3) 項目 D
- 4) 項目 E

(3) 複合領域コースにおけるこれまでの改善点

平成 19 年以降の志願者数の推移、特に平成 20 年度に平成 18 年度を除けば最大の志願者数を記録したこと、を見れば、平成 19 年度に減少したことは 1 で述べた項目 A, B, C が原因であり、また前述のように学生へのきめ細かい指導や相手大学の受け入れに過度の負担を与えないためには 1 学年 100 名程度までにとどめた方がよいと考えれば、コース志願者を増やすための特別な措置を講ずる必要はないと思われる。ただ、この 4 つのコースを含め各コースは学生のニーズにこたえるよう、これまでコースの改善を行ってきた。本節では、4 つのコースを中心にこれまでの各コースの改善状況について述べることにする。

- 1) 文理総合コース
- 2) 医用工学コース
- 3) 国際テクニカルライティングコース
- 4) 生活空間研究コース
- 5) 他のコースにおける改善点

(4) 今後の改革一緊急を要しかつ対応が可能なもの

平成 20 年度, 21 年度と志願者数, 履修者数は適正と思われるレベルで推移していると思われるが, 今回, 学生の意見聴取を行った結果, その中には早急な対応が必要と思われるものがあったので以下に列挙する。なお, そのうちのいくつかは既に対応を始めている。

1) 複合領域各コースの内容の学生への周知

- ◎対応: 10 月の学科所属オリエンテーションにおける全体説明の後に, たとえば翌週に, 各コースの主査および所属学生が出席した説明会を行う。
- 今年度は, 平成 22 年 1 月 13 日に開催する予定である。
- 来年度からは 10 月と 1 月の 2 回各コースの説明会を行い, 募集も 10 月, 1 月 (ないしは 2 月) の 2 回行うことが望ましい。

2) コース所属の時期の増加

- ◎対応: 7 月ごろにも募集を行い, 後学期からのコース所属を認める。
- 今年度, 試験的に後学期から「総合生命科学コース」, 「文理総合コース」に所属する 2 年次学生を募ったところ, 両コース合わせて 14 名の学生から希望が寄せられた。

3) 各コースの提供科目の見直し

- ◎対応: 各コースにおいて, 相手大学の窓口教員と早急に協議し, 提供科目の見直しと整備を行う。

4) コース所属学生間の情報交換の場の設置

- ◎対応: 4 月初めにコースごとに所属学生が集まる場を設定する。

5) 四大学連合HPの改善

- ◎対応: 四大学連合HPにコースごとの掲示板を設ける。

(5) 対応が必要であるが, 長期的な対策を必要とするもの

学生からの意見で対応が必要なものを列挙する。ただ, これらに対する対応は, 本学だけでは難しい, 本学だけで対応可能であるが簡単ではない, などの問題が予想され, 長期的な対策が必要であろう。

- 1) 履修手続きの複雑さ
- 2) 授業時間割, 授業日程の統一
- 3) 遠隔授業
- 4) 本学のカリキュラムとの関連
- 5) 他大学で履修した授業科目の取扱い
- 6) 交通費の補助
- 7) 生協の利用

(出典) 教育推進室複合領域コース運営専門委員会資料

(資料2)「アジア人財資金構想」実施計画

事業内容	H19 (初年度、中期)	H20	H21	H22	H23(プログラム終了後)
産学連携教育	現教育プログラムの継続 / ブラッシュアップ 産業界のニーズ発掘 / 新プログラム開発		本格運用・ 教科書開発	授業評価・ 完成	新産学連携教育 システムの継続的運用
ビジネス日本語 教育	日本語ニーズ調査 新プログラム提案	「技術コミュニケーション プロジェクト」試行, 日本文化教育科目追加		本格運用評価・改訂, 教材開発	新日本教育シス テムの継続的運用
インターンシップ 教育	現行システム評価 コンソーシアム 体制構築	新インターン シップ試行	本格運用とフィードバック / 分野拡大		新インターン シップシステムの 継続的運用
就職支援	現行システム実施と評価 企業の情報収集	学内就職支援システム統合準備 新システム開発・試行 コンソーシアム内でのセミナー・勉強会		東工大人財育成 センターに統合	東工大人財育成 センターの運用
調査	実績調査 → フィードバック		外部機関委託プログラム評価		調査事業の 継続的運用
留学推進	留学生受け入れ広報・面接 留学生・卒業生のネットワーク構築		海外拠点、現地機関との連携		留学推進事業の 継続的運用
プロジェクト マネジメント	支援・連携体制構築		支援体制の定常的運用		支援体制の本格 運用

(出典) 東工大クロニクル No.424

(資料3) アジア人財インターンシップ

日本企業でのインターンシップを行うとともに、日本企業独特の習慣等を学び、日本企業での外国人技術者の生き方を見いだすための端緒となる授業である。具体的には、インターンシップ授業を開始するに当たり、専門コーディネータによる授業を行い、日本の企業で働く意味を説明するとともに、カウンセリングを行い、各留学生の日本企業への関心を醸成させ、どのような企業で、どのような内容のインターンシップが可能かについて検討する。

(出典) 平成 21 年度大学院学習案内及び教授要目

(資料4) 価値創造インターンシップ

イノベーション スキルアップ プログラム

● On-Campus Training

● フュージョンプロジェクト

● ドクターズ キャリア フォーラム

● インノベーションツアー

● キャリア相談

● 価値創造インターンシップ

博士の新たな
キャリアパス

価値創造インターンシップ

経験ではない。経歴である。

PLIPの最大の特徴である、長期滞在型(3か月以上)インターンシップ

企業における研究活動体験、実践的な職場環境体験を通して、一般的な短期間インターンシップでは得ることの出来ない、実のある経験が得られます。実際に共同研究を行ったり、生産の現場に立ったりする事により、より実践的な企業体験が可能です。

インターンシップ先は、連携企業に限らずその他様々な分野の企業が候補であり、受講生の希望に沿って可能な限りPLIPがその実現に協力します。さらにインターンシップ期間中はPLIPから給与の支給があり、経済的支援も受けられます。

●PLIPインターンシップ受入れ先企業

P&Gジャパン、三菱マテリアル、グリコ、凸版印刷、NEC、ブラザー、富士通、NTT、日立製作所、旭化成、アジレント・テクノロジー、カネカ、村田製作所、富士フイルム、三洋電機、キヤノン、三菱電機、コマツ、ヒューレット・アソシエーツ、バークレイズ・キャピタル、JFEスチール、ヒューレット パッカード、住友重機、ファイザー、GEジャパン 等40社以上、他にも鋭意拡大中

(出典) プロダクティブリーダー養成機構ホームページ

(資料5) インターンシップシンポジウム

産学連携による人材育成～長期インターンシップ・プログラム開発～

シンポジウム

「理工学系大学院における長期インターンシップのあるべき姿を探る」

東京工業大学では、文部科学省の支援で実施してきた「産学連携による実践型人材育成事業」に関わる方々と一堂に会し、今後の取り組みに向けての互様の無い意見交換の場を通して本事業の発展的な展開を図ることを目的にシンポジウムを開催いたします。本シンポジウムでは、「理工学系大学院における長期インターンシップのあるべき姿を探る」をメインテーマに、大学院修了者に望まれる能力、長期インターンシップの位置づけ、各大学における取り組みの工夫、実施にあたっての課題や問題点、産学連携人材育成のあり方などについて、現場で取り組んでおられる皆様と自由に意見交換を行いたく存じます。多くの皆様の御参加をよろしくお願いいたします。

日時：平成22年3月9日(火) 13:30～17:30 (終了後懇親会)
場所：東京ステーションコンファレンス (サビアタワー) 4階 402号室
主催：東京工業大学
問合せ先：東京工業大学大学院総合理工学研究科 (担当：泉 恵美子)
TEL: 045-924-5408, FAX: 045-924-5435, E-mail: izumi.e.aa@m.titech.ac.jp

<プログラム>

13:00 開場
13:30 開会挨拶 三島 良直 (東京工業大学)
13:40 講演「産学連携人材育成の現状と将来への期待」 田中 宣秀 (日本インターンシップ学会)
14:15 講演「産業界が期待する産学連携人材育成のあり方」 松日泰 信人 ((株)東芝)
14:50 休憩
15:10 事例紹介
京都大学：「大学院地球環境学会インターンシップ」
群馬大学：「企業から期待されるナノテク技術人材の育成」
岡山大学：「エンジニアリングデザイン能力の養成プラン—瀬戸内圏企業と協同した実践的キャリア形成—」
豊橋技術科学大学：「社会環境即応型リーダー技術者育成プラン—MOT 指向生産システム技術科学教育によるリーダー人材の養成—」
東京工業大学：「産学協働による実践的 PBL 教育プログラム」
16:10 パネルディスカッション モデレーター／岸本 喜久雄 (東京工業大学)
17:30 閉会挨拶 齋藤 彬夫 (東京工業大学理事・副学長(教育担当))
17:45 懇親会 (会費：6,000 円) 6 階 606 号室

(出典) 教育推進室作成資料

(資料6) 博士一貫教育プログラム評価検討会及び講演会

東京工業大学大学院博士一貫教育プログラムのアドバイザーボードメンバーによる評価検討会 主催：東京工業大学教育推進室 大学院院博士一貫教育プログラム運営委員会 日 時 平成21年8月4日 (火) 10:00-13:40 場 所 東工大蔵前会館 3F 手島精一記念会議室 司会 博士一貫教育プログラムアドバイザー選考・運営専門委員会委員長 小田俊理 10:00-10:10 挨拶 東京工業大学理事・副学長(教育担当) 齋藤彬夫 10:10-10:40 東京工業大学大学院博士一貫教育プログラムの実施状況について 博士一貫教育プログラム運営委員会委員長 益子正文 10:40-10:50 休憩 (コーヒーブレイク) 10:50-12:30 アドバイザーボードメンバーによる評価 カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA) 教授 伊藤龍男 先生 ケンブリッジ大学 教授 曾我健一 先生 サザンブトン大学 教授 水田 博 先生 デルフト工科大学 教授 富山哲男 先生(書面により評価) デルフト工科大学 准教授 石原良一 先生 ニューヨーク州立大学 教授 中村俊雄 先生(書面により評価) 日産自動車株式会社 フェロー 久村春芳 氏 (独)科学技術振興機構イノベーション推進本部 開発主監 今成 真 氏 ダイキン工業株式会社 専務執行役員 島越邦和氏 12:40-13:40 ランcheon懇談会 (立食式：手島精一記念会議室)	東京工業大学大学院博士一貫教育講演会 博士課程教育の将来像をさぐる —博士一貫教育プログラム実施への提言と討論— 主催：東京工業大学教育推進室 大学院院博士一貫教育プログラム運営委員会 日 時 平成21年8月4日 (火) 13:50-18:40 場 所 東工大蔵前会館 1F ロイヤルブルーホール 司会 博士一貫教育プログラムコースカリキュラム専門委員会委員長 里 達雄 13:50-14:10 挨拶 東京工業大学学長 伊賀健一 講演 ・海外の大学からみた日本の博士課程教育への提言 14:10-14:50 カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA) 教授 伊藤龍男 先生 14:50-15:30 ケンブリッジ大学 教授 曾我健一 先生 ・日本企業が期待する博士像と博士課程教育への提言 15:30-16:10 日産自動車株式会社 フェロー 久村春芳 氏 ・博士一貫教育コース修了者及び学生からの一貫教育プログラムに対する意見と将来への提言 16:10-16:25 日東電工株式会社 (機械制御システム専攻修了) 増田良太 16:25-16:40 理工学研究科 化学工学専攻 博士課程学生 所 舞子 16:40-16:55 理工学研究科 電子物理工学専攻 博士課程学生 山端元音 16:55-17:10 味の素株式会社 (生物プロセス専攻修了) 小泉直也 17:10-17:40 休憩 (コーヒーブレイク) 17:40-18:40 パネル討論会 司会 博士一貫教育プログラム派遣プログラム専門委員会委員長 三原久和 テーマ： 博士課程教育の将来像をさぐる —これからの博士一貫教育プログラムへの期待(博士課程教育への提言、修了生への期待等)—
--	--

(出典) 教育推進室作成資料

(資料7) 21世紀 COE プログラム

採択年度	分野名	プログラム名称	関連部局	リーダー	学内措置によるセンター	大学院特別教育コース	評価	
							中間評価	事後評価
2002	生命科学	生命工学フロンティアシステム	生命理工学研究科	半田 宏	バイオフィロンティアセンター	異分野融合バイオフィロンティア特別教育コース	B	設定された目的は概ね達成され、期待どおりの成果があった
	化学材料科学	分子多様性の創出と機能開拓	理工学研究科、総合理工学研究科	山本 隆一	分子理工学センター		A	設定された目的は概ね達成され、期待どおりの成果があった
		産業化を目指したナノ材料開拓と人材育成	理工学研究科、総合理工学研究科	細野 秀雄	先進ナノマテリアル研究センター	プロジェクトマネージングコース	A	設定された目的は十分達成され、期待以上の成果があった
	情報電子	フォトニクスナノデバイス集積工学	理工学研究科、総合理工学研究科	荒井 滋久	集積光電子工学研究センター		A	設定された目的は概ね達成され、期待どおりの成果があった
2003	数学物理学地球科学	量子ナノ物理学	理工学研究科	安藤 恒也	量子ナノ物理学研究センター		B	設定された目的は十分達成された
	機械建築土木その他工学	先端ロボット開発を核とした創造技術の革新	理工学研究科、総合理工学研究科、情報理工学研究科	広瀬 茂男	スーパーメカシステム創造開発センター	機械系COEプロジェクトリーダーコース	B	設定された目的は概ね達成された
		都市地震工学の展開と体系化	理工学研究科、総合理工学研究科、情報理工学研究科	大町 達夫	都市地震工学センター	都市地震工学特別教育コース	A	設定された目的は十分達成された
		世界の持続的発展を支える革新的原子力	理工学研究科、総合理工学研究科	関本 博	革新的原子力研究センター		B	設定された目的は概ね達成された
	学際複合新領域	大規模知識資源の体系化と活用基盤構築	情報理工学研究科、社会理工学研究科	古井 貞照	大規模知識資源センター	大規模知識資源学・特別教育研究コース	B	設定された目的は概ね達成された
2004	革新的な学術分野	インスティテュショナル技術経営学	理工学研究科、情報理工学研究科、社会理工学研究科、理財工学研究センター	渡辺 千仍	インスティテュショナル技術経営学研究センター		B	設定された目的は概ね達成された
		エージェントベース社会システム科学の創出	総合理工学研究科、社会理工学研究科	出口 弘	エージェントベース社会システム科学研究センター	価値創造社会システム科学特別教育研究コース	B	設定された目的は十分達成された
		地球：人の住む惑星ができるまで	理工学研究科、生命理工学研究科、フロンティア創造共同研究センター	高橋 栄一	地球史研究センター	生命惑星地球学特別教育コース	A	設定された目的は十分達成された

(出典) 研究戦略室作成資料

(資料8) グローバル COE プログラム

2007年度採択

採択年度	分野名	プログラム名称	拠点リーダー名	部局名	連携先機関名
2007年度	生命科学	生命時空間ネットワーク進化型教育研究拠点	徳永 万喜洋	大学院生命理工学研究科	東京医科歯科大学、理化学研究所、カリフォルニア大学(アメリカ)、スクリップス研究所(アメリカ)、国立科学研究所(フランス)
				大学院理工学研究科	
	化学、材料科学	材料イノベーションのための教育研究拠点	竹添 秀男	大学院理工学研究科	産業技術総合研究所、物質・材料研究機構
				大学院総合理工学研究科	
	情報、電気、電子	新たな分子化学創発を目指す教育研究拠点	鈴木 啓介	大学院理工学研究科	理化学研究所
				大学院総合理工学研究科	
				大学院情報理工学研究科	
		計算世界観の深化と展開	渡辺 治	大学院理工学研究科	スイス連邦工科大学(スイス)、カリフォルニア大学(アメリカ)
				大学院総合理工学研究科	
				グローバルエッジ研究院	
		フォトニクス集積コアエレクトロニクス	小山 二三夫	大学院総合理工学研究科	カリフォルニア大学(アメリカ)、ケンブリッジ大学(イギリス)
				大学院理工学研究科	

2008年度採択

採択年度	分野名	プログラム名称	拠点リーダー名	部局名	連携先機関名
2008年度	数学、物理学、地球科学	ナノサイエンスを拓く量子物理学拠点	斎藤 晋	大学院理工学研究科	カリフォルニア大学(アメリカ)
	機械、土木、建築、その他工学	震災メカリスク軽減の都市地震工学国際拠点	時松 幸次	大学院理工学研究科	太平洋地震工学研究センター(アメリカ)
				大学院情報理工学研究科	
2009年度採択	学際、複合、新領域	エネルギー学理の多元的学術融合	平井 秀一郎	大学院理工学研究科	ジョージア工科大学(アメリカ)、韓国科学技術院(韓国)、シュツットガルト大学(ドイツ)
				大学院総合理工学研究科	
				大学院社会理工学研究科	
				留学生センター	

2009年度採択

採択年度	分野名	プログラム名称	拠点リーダー名	部局名	連携先機関名
2009年度	学際、複合、新領域	地球から地球たちへ	井田 茂	大学院理工学研究科	東京大学
				大学院生命理工学研究科	
				大学院総合理工学研究科	

(出典) 研究戦略室作成資料

(資料9) 環境エネルギー機構

環境エネルギー機構は、東京工業大学におけるエネルギー分野と環境分野の教員による連合体として、組織及び教員の横断的連携・協力により、萌芽的な革新技术を創出するとともに、分化と深化によって複雑化したエネルギー・環境関連学術を融合、再構造化し、俯瞰と知識の有効活用を可能にする新たな学問領域を開拓することによって、将来のエネルギー・環境問題解決に寄与する技術開発と人材育成を強力に推進することを目的とします。



(出典) 環境エネルギー機構ホームページ

(資料10) 環境エネルギー機構発足記念講演会

環境エネルギー機構発足記念講演会開催

東京工業大学には、太陽電池、燃料電池、高効率エネルギーシステム、水素、バイオマス、CO₂回収隔離などを初めとするエネルギー・環境分野の教員が200人以上在籍しています。これらの教員を結集して、温暖化ガス削減など、東工大の総合力を活かして、直面する環境・エネルギー問題の解決に取り組むため学内横断組織である「環境エネルギー機構」が2009年11月に発足しました。

このたび、2010年3月11日に、学内外より約400人の研究者、企業からの参加者等を迎えて、「環境エネルギー機構」の取り組みを広く紹介し、意見を求めるために、発足記念講演会を開催しました。

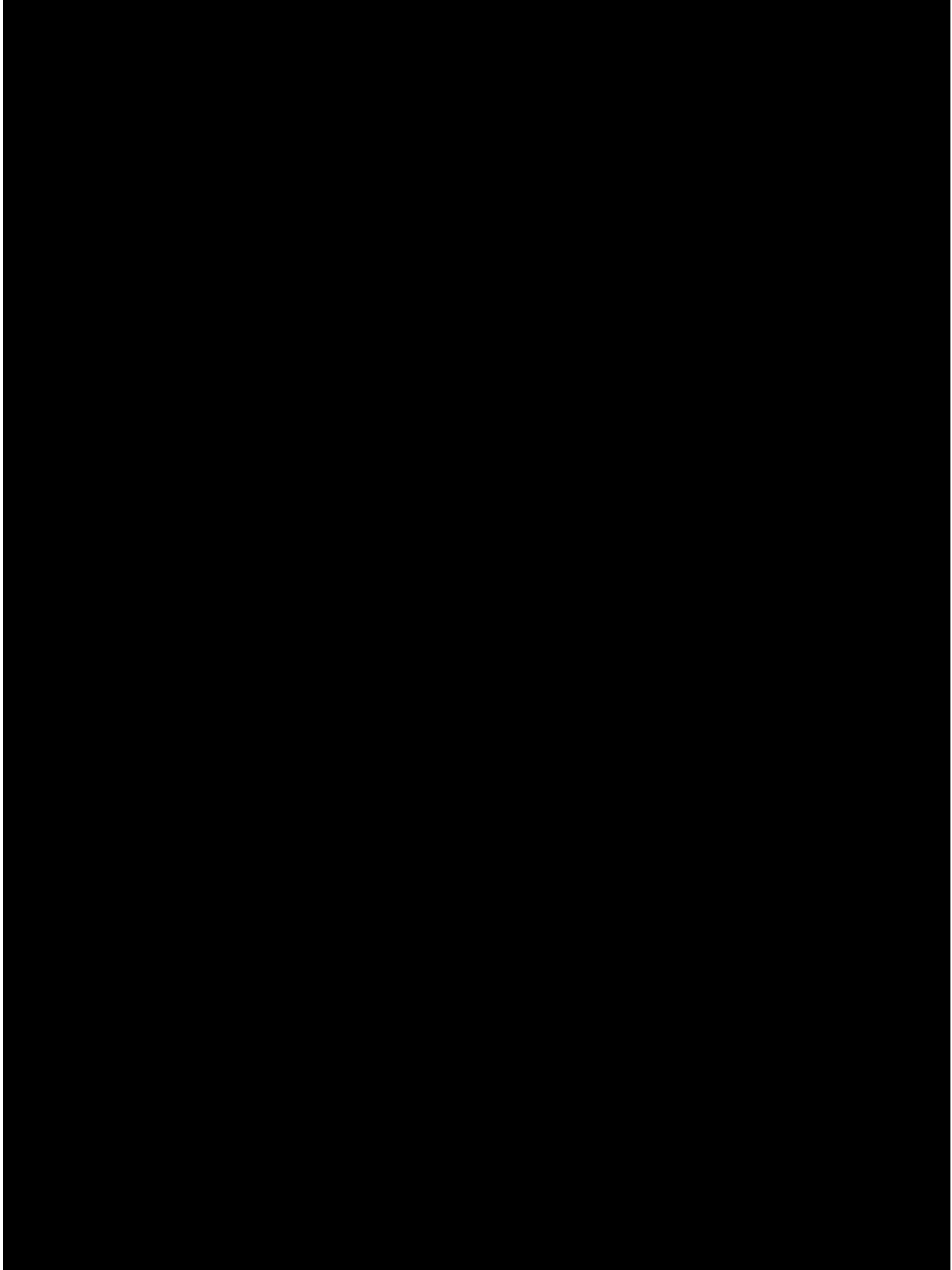
講演会は、伊賀健一学長の挨拶に続いて、副機構長(企画広報担当)の平井秀一郎教授が「機構の概要説明」、同じく副機構長(研究担当)の小長井誠教授が「太陽電池の研究開発」、エネルギーセンター燃料電池・二次電池部門長の山崎陽太郎教授が「燃料電池の研究開発」、統合研究院の柏木孝夫教授が「次世代エネルギーシステム」について、それぞれプレゼンテーションし、最後に岡崎健機構長より「東工大研究開発CO₂25%削減への取り組み」と題した講演を行いました。

また、激励のビデオメッセージが、本学卒業生である菅直人副総理・財務大臣より寄せられ、また、来賓として森口泰孝文部科学審議官、本部和彦経済産業省資源エネルギー庁次長、森谷賢環境省大臣官房審議官(地球環境担当)、相澤益男総合科学技術会議議員(前学長)より祝辞をいただき、盛況の内に幕を閉じました。

環境エネルギー機構ではこの講演会を出発点として、我々が直面する環境・エネルギー問題の解決に取り組んでいきます。

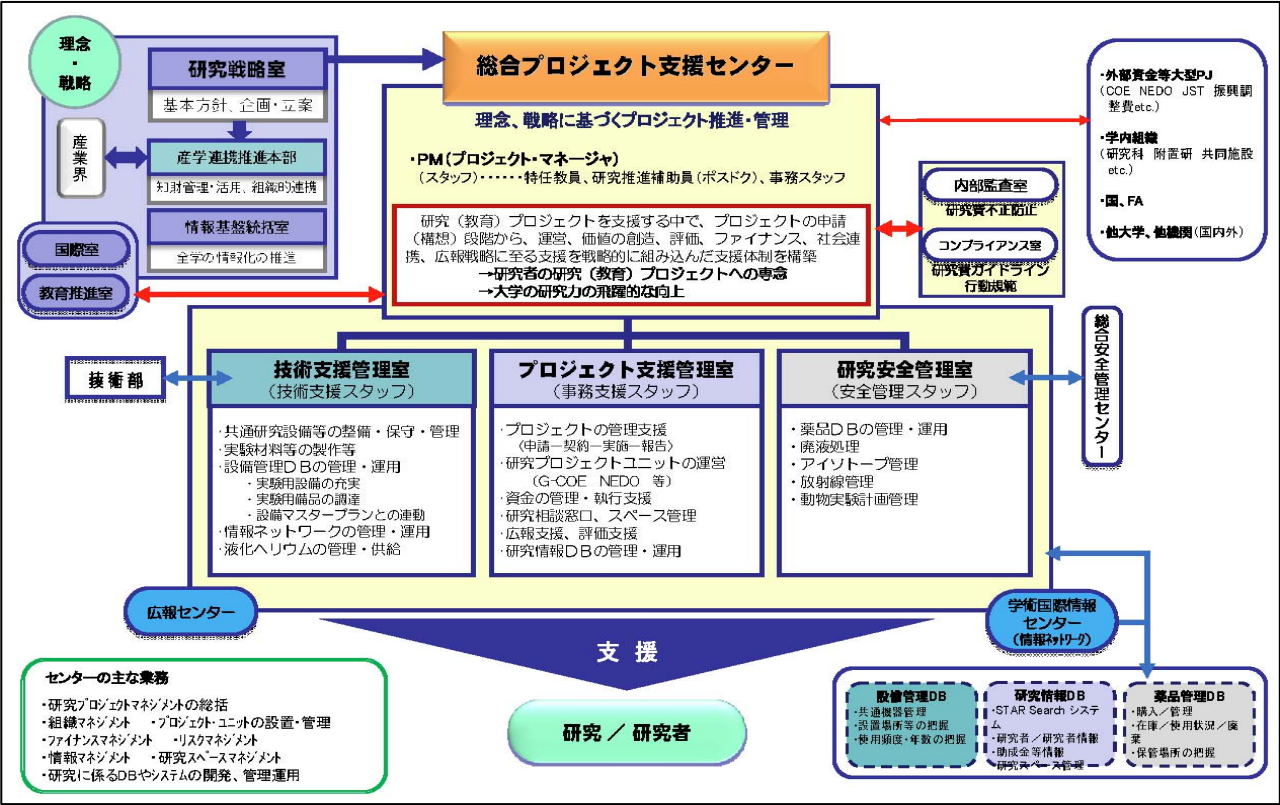
(出典) 本学ホームページ

【不開示】（資料 11）Start-up Station 資料



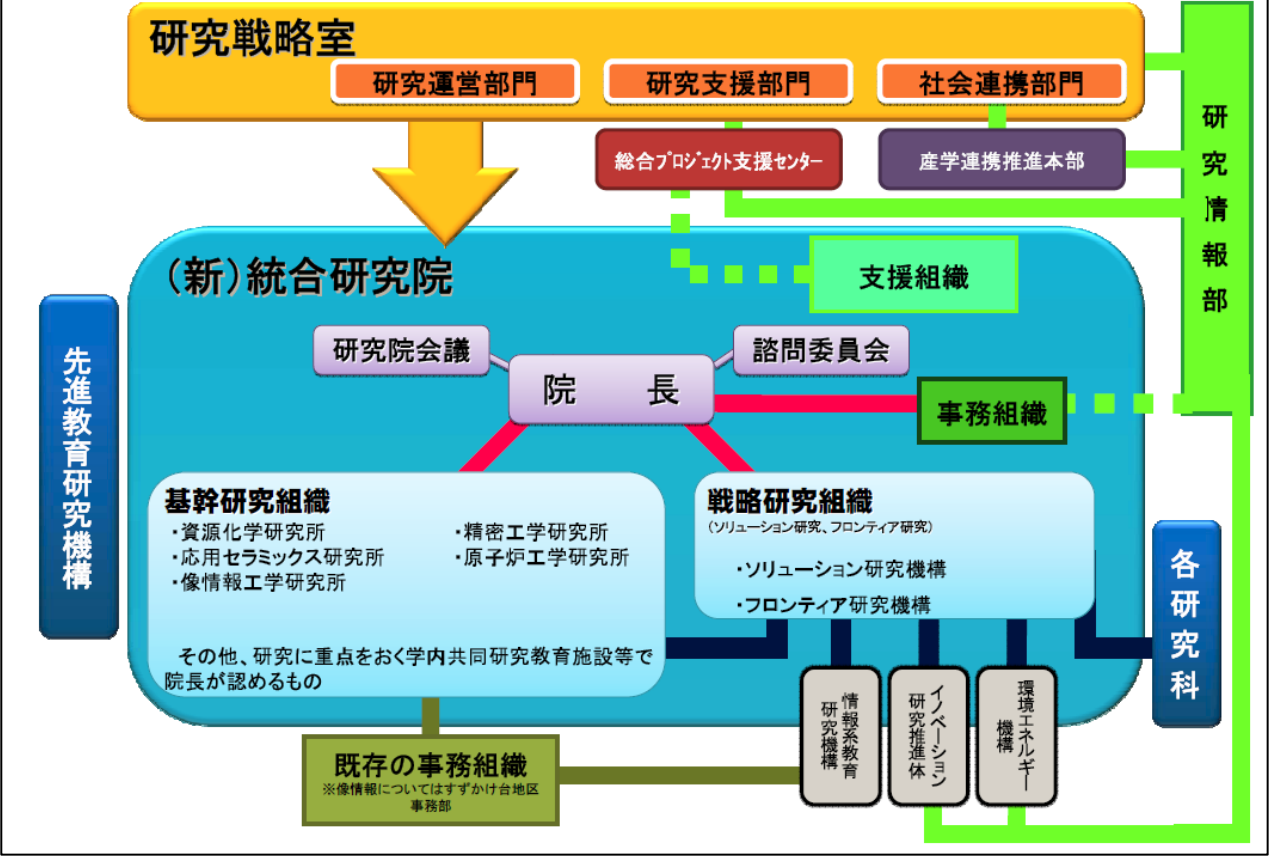
（出典）産学連携本部資料

(資料 12) 総合プロジェクト支援センター構想概要



(出典) 研究戦略室作成資料

(資料 13) 新統合研究院の組織イメージ



(出典) 研究戦略室作成資料

(資料 14) 科学研究費補助金制度に関する説明会開催案内

科学研究費補助金制度に関する説明会の開催について

1 趣 旨

科学研究費補助金の適正な使用を確保するとともに、科学研究費補助金制度の理解を深め、積極的な申請と獲得を促すため、科学研究費補助金制度に関する説明会を開催します。

また、外国人研究者向けに、英語による説明会も開催します。

2 通常説明会

(1) 日時及び場所

●第1回（主会場：大岡山、副会場：すずかけ台）

・日 時：平成21年9月28日（月） 9：30～12：00

・場 所：大 岡 山：H101講義室（本館1階）

すずかけ台：すずかけホール

※ 終了後、14：00～15：15 T2R2システム説明会（第3回）が開催されます。当日の説明は、科研費申請書／報告書生成機能を中心に説明する予定です。

（場所：テレビ講義室

大岡山：西2号館W241、すずかけ台：J2棟J221）

●第2回（主会場：すずかけ台、副会場：大岡山）

・日 時：平成21年9月30日（水） 9：00～12：30

・場 所：すずかけ台：すずかけホール

大 岡 山：H101講義室（本館1階）

※1 大岡山とすずかけ台を遠隔講義システムで結び開催します。

※2 原則として、各回とも説明内容は同一ですので、都合のよろしい日に御参加ください。

(2) 対象者

本学の教員、事務職員等（前年度実績：255名）

(3) 次第（予定） （2時間30分）

区 分	説明事項	説 明 者
5分	挨拶	伊澤理事・副学長（研究戦略室長）
50分	科研費の審査の仕組み及び獲得のポイント等について （特別推進研究、基盤研究、挑戦的萌芽研究、若手研究(S・A・B)）	岡畑 恵雄 教授 （日本学術振興会・学術システム研究センター・主任研究員）
20分	科研費の審査の仕組み及び獲得のポイント等について （新学術領域研究、特定領域研究）	松本 義久 准教授 （文部科学省・研究振興局・学術調査官）
20分	質疑応答	
30分	平成22年度科研費の公募要領、科研費の不正使用の防止等について	研究業務課
15分	質疑応答	

3 外国人研究者向け説明会 Briefing on KAKENHI Funding System - for foreign researchers

We will hold a briefing session in English along with the Japanese session. This briefing is to deepen your understanding about the KAKENHI funding system as well as to encourage your application to KAKENHI. We look forward to your participation.

(1) 日時及び場所 Date and Place

・開催日 Date : 平成21年9月30日(水) SEPTEMBER 30, 2009

・時間 Time : 11:30~12:30

・場所 Place : すずかけ台：すずかけホール

Suzukake Hall, Suzukakedai campus

大岡山：H101講義室(本館1階)

H101 Lecture Room, 1st Floor, Main Bldg., Ookayama

※ 通常説明会(第2回)に引き続き、大岡山とすずかけ台を遠隔講義システムで結び開催します。

This Briefing will be held after the Japanese briefing, using TV conference system connecting Ookayama and Suzukakedai.

(2) 次第 Program (1 hour)

区 分	説明事項	説 明 者
30 min	科学研究費補助金制度の概要について “About KAKENHI funding system”	吉田 尚弘 教授 (元 日本学術振興会・学術システム研究センター・専門研究員) Lecturer: Prof. Naohiro Yoshida (ex-Program Officer, Research Center for Science System, JSPS)
30 min	質疑応答 Question and Answers	

(3) 質問の受付 Your Questions

質問がある場合は、原則として、事前に受け付け、当日回答しますので、以下のとおり提出してください。

We would like to have your questions beforehand so that we can have the answers ready at the briefing. If you have any questions on KAKENHI, please send them by e-mail as follows:

① 提出期限 Deadline :

平成21年9月18日(金)17:00 5:00 p.m., Friday, SEPTEMBER 18

② 提出方法：メールの本文に質問内容を簡潔に記載し以下のとおり送付

How to submit your questions by e-mail

・メール件名：科学研究費補助金制度説明会質問事項

E-mail subject : **Questions for KAKENHI briefing**

・メール送付先 E-mail address : efund@jim.titech.ac.jp

(出典) 研究業務課作成資料

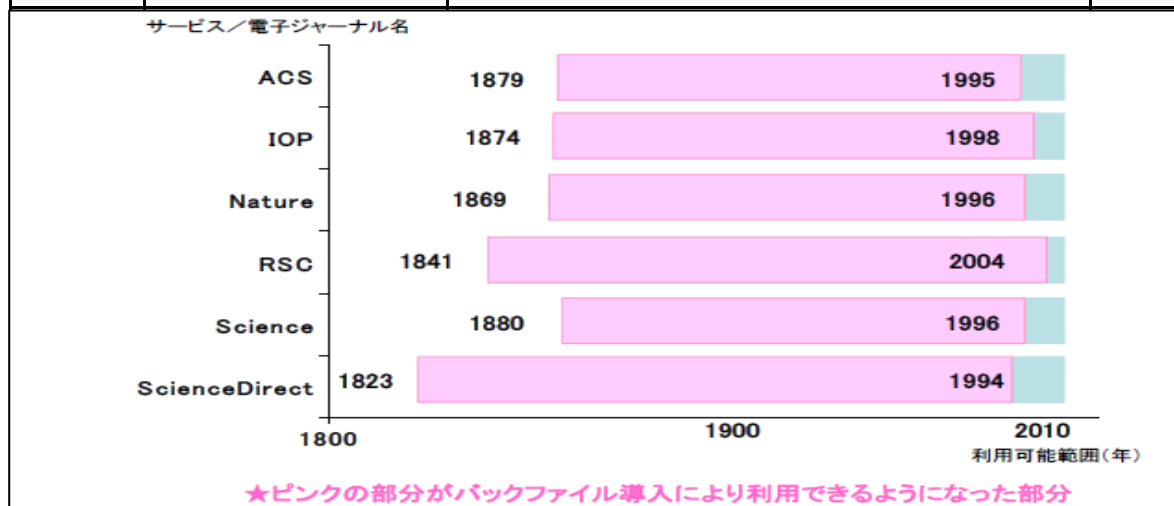
(資料 15) 社会人教育院講座・プログラム

製造中核人材育成講座	ものづくりを支える現場の高度技能とボーダーレスな先端技術を統合して新技術・新製品を開発できる人材、すなわち「製造中核人材(スーパーマイスター)」を育成する講座です。 本講座は、企業において、概ね 10 年以上の実務経験を有し、企業の次世代を担う 30～40 歳代の現場技術者に「ものの見方・考え方」「知識」「人脈」の幅を広げていただくことを念頭においています。 修了者には学長名の修了証書が発行されます。
キャリアアップ MOT プログラム	キャリアアップ MOT(エッセンシャル MOT)プログラムは、本学の技術経営(MOT)教育ノウハウ、現場、実践を意識したカリキュラム(シミュレーション、ケース教材)、少人数制による質の高い講義と相互学習を通じて、中堅・中小企業の次世代を担う中核人材のキャリアアップを支援します。 修了者にはイノベーションマネジメント研究科長名の修了証書が発行されます。
理工系一般プログラム I	2010(平成 22)年度前期は、環境科学、環境工学、たたら製鉄の 3 科目を開講します。
理工系一般プログラム II	2010 年度前期は、主に化学物質の管理に関連する分野の科目を 4 科目開講します。「化学物質総合管理1」「発がん毒性特論」「脳と化学物質」「産業安全衛生」 本プログラムは、「知の市場」との共催科目です。
理工学基礎プログラム	本理工学基礎プログラムは、本学の附属科学技術高等学校専攻科が担っていた建築関連の一部機能を担うために設置されています。

(出典) 社会人教育院ホームページ

(資料 16) 電子ジャーナルバックファイルの契約状況

年度	電子ジャーナル名	内容	タイトル数
2008	ACS Legacy Archives	American Chemical Society の全発行誌(1879-1995 年刊行分)を収録。論文数約 464,000 件。	54
2009	IOP Journal Archive	Institute of Physics の発行誌(1874-1998 年刊行分)を収録。論文数約 157,000 件	92
2009	Nature Archive	「Nature」1869 年(創刊号)から 1996 年までを収録。論文・記事数約 417,000 件。	1
2009	RSC Journals Archive	Royal Society of Chemistry の発行誌(1841-2004 年刊行分)を収録。論文数約 238,000 件	42
2009	Science Classic	「Science」1880 年(創刊号)から 1996 年までを収録	1
2009	ScienceDirect サブジェクトバックファイルコレクション	エルゼビア社発行の全雑誌の 1994 年以前発行分(ほとんどが創刊号から)。	1573



(出典) 附属図書館作成資料

(資料 17) 図書館開館時間延長実績 (黄色箇所が延長時間帯にかかる箇所, 調査時刻は年度により一部異なる)

平日

年度	平成 21 年度			平成 20 年度		
延長開館日数	28 日 (前期 14 日, 後期 14 日)			28 日 (前期 14 日, 後期 14 日)		
延長開館時間	21:00～23:00			21:00～22:00		
調査時刻	18:00	21:00	22:45	18:00	21:00	22:00
在館者数	6,091	4,138	2,261	5,023	3,341	2,122
平均	217.5	147.8	80.8	179.4	119.3	75.8

土・日・祝日 ※調査時刻は年度により一部異なる

年度	平成 21 年度				平成 20 年度			
延長開館日数	12 日 (前期 5 日, 後期 7 日)				14 日 (前期 7 日, 後期 7 日)			
延長開館時間	9:00～11:00, 17:00～20:00				9:00～11:00, 17:00～20:00			
調査時刻	11:00	14:00	17:00	19:45	11:00	18:00	19:00	20:00
在館者数	1,566	2,798	3,079	1,517	1,161	2,294	1,931	968
平均	130.5	233.2	256.6	126.4	82.9	163.9	137.9	69.1

(出典) 附属図書館作成資料

(資料 18) 図書館サポーター

平成 22 年度図書館サポーターの募集について

図書館サポーターに参加して下さる学生さんを大募集！

〔活動内容〕

- ・ カウンター対応の補助
- ・ 書架の整理
- ・ 広報活動
- ・ 展示等の企画の提案
- ・ 広報資料の外国語訳の補助
- ・ 留学生を含む学生からの学習相談への対応
- ・ 利用者の館内見学への対応

などなど。図書館自体や図書館での仕事に興味のある方, 自分の力で図書館をより良くしたいと思っている方にオススメです。ご希望にはできるだけ応じます。

〔応募資格〕 学部または大学院に所属している学生**〔募集期間〕** 平成 22 年 4 月 5 日(月) ～ 4 月 16 日(金)**〔申請書提出先〕** 情報図書館課総務グループ

(出典) 附属図書館作成資料

(資料 19) 附属図書館に配架された教員の著書一覧 (例 : H22.1~3 配架 79 冊)

▼ 高校生・受験生の方へ

▼ 在学生の方へ

▼ 卒業生の方へ

▼ 企業・研究者の方へ

▼ 一般・社会人の方へ



東京工業大学
Tokyo Institute of Technology

お問い合わせ

資料請求

交通アクセス

サイトマップ

English

サイト内検索

Googleカスタム検索

トップ

大学案内

入学案内

学生生活

学部・大学院

研究所・図書館等

研究・産学連携

国際交流

トップ

大学案内

教員の著書

大学案内トップ

学長の紹介

キャンパス案内

大学概要

東京工業大学の紹介

沿革と歴史

キャンパス写真集

キャンパス名所巡り

紹介TV

1分で感じる東工大の研究成果

広報誌の案内

教員の著書

大学見学・取材申込

大学規定

東京工業大学の取り組み

教員の著書

English of this page

本学教員(名誉教授含む)が関わった著書を紹介しております。

最近図書館に配架された著書

過去に刊行された著書

最近附属図書館に配架された著書

最近附属図書館に配架された。本学教員(名誉教授含む)が関わった著書のリストです。(配架時期:平成22年1月~3月)

分類	著作に関わった 本学教員	タイトル・主たる著者	出版者	発行
総記	古井直昭	人と対話するコンピュータを創っています: 音声認識の最前線 / 古井直昭	角川学芸出版	
総記	伊藤宏司	ニューロダイナミクス / 伊藤宏司著	共立出版	2010.2
総記	青木尊之	はじめてのCUDAプログラミング / 青木尊之, 額田彰著; 第二I/O編集部編集	工学社	2009.11
総記	岸本章宏	ゲーム計算メカニズム: 将棋・囲碁・オセロ・チェスのプログラムはどのように動く / 小谷善行編著; 岸本章宏, 柴原一友, 鈴木豪共著	コロナ社	2010.2
総記	権藤克彦	例解UNIXプログラミング教室: システムコールを使いこなすための12講 / 富永和人, 権藤克彦著	ピアソン・エデュケーション	2007.10
総記	渡辺治, 米崎直樹	計算論入門: 計算の基本原理解理解のために / 渡辺治, 米崎直樹著	日本評論社	2001.4
哲学	橋爪大三郎	はじめての言語ゲーム / 橋爪大三郎著	講談社	2009.7
社会科学	出口弘, 木嶋恭一, 猪原健弘, 今田高俊, 小野功, 蟹江孝史, 寺野隆雄, 中丸麻由子, 新田克己, 長谷川修, 廣田薫, 三宅美博, 室伏俊明	エージェントベースの社会システム科学宣言: 地球社会のリベラルアーツめざして / 出口弘, 木嶋恭一編著	勁草書房	2009.4
社会科学	橋爪大三郎	橋爪大三郎の社会学講義 / 橋爪大三郎著	筑摩書房	2008.5
社会科学	橋爪大三郎	橋爪大三郎の政治・経済学講義 / 橋爪大三郎著	筑摩書房	2008.6
社会科学	橋爪大三郎	裁判員の教科書 / 橋爪大三郎著	ミネルヴァ書房	2009.6
社会科学	影山任佐	殺人犯罪学 / 影山任佐著	ナツメ社	2009.1
社会科学	山中浩明, 時松孝次, 大町達夫, 盛川仁, 翠川三郎	地震・津波・ハザードの評価 / 山中浩明編; 時松孝次 [ほか] 著	朝倉書店	2010.1
社会科学	影山任佐	「空虚な自己」の時代 / 影山任佐著	日本放送出版協会	1999.1
社会科学	中山典, 松田稔樹, 牟田博光	教育工学事典 / 日本教育工学会編	実教出版	2000.6

(出典) 本学ホームページ

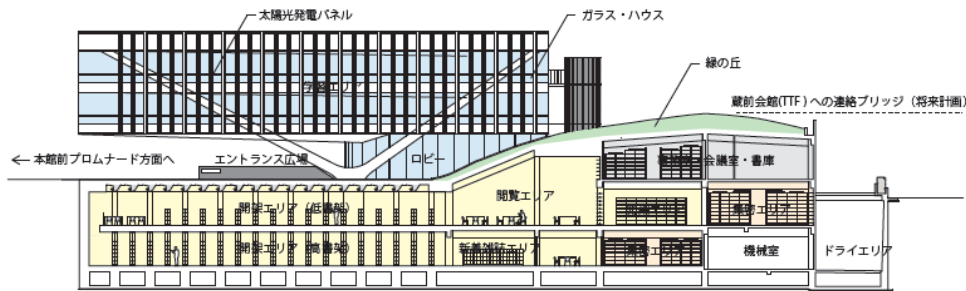
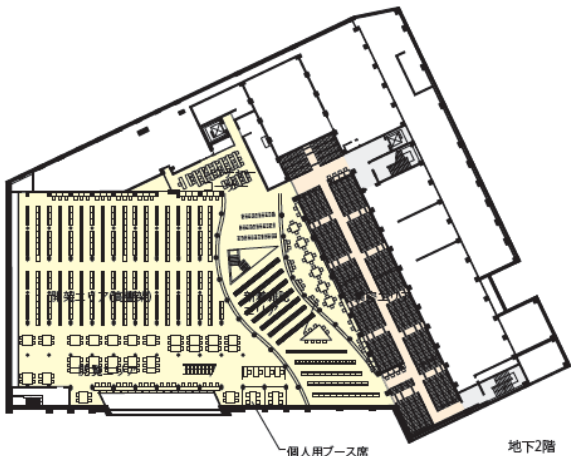
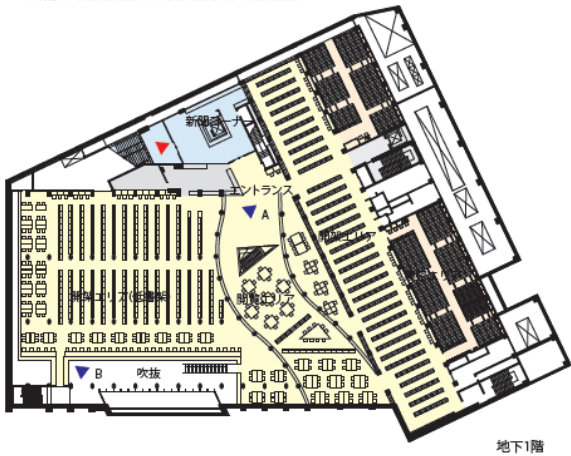
(資料 20) 新附属図書館の概要



外観イメージ：正門側より広場・緑の丘を俯瞰、登り庭の奥が閲覧室エリア

新図書館は、次のような考え方でほとんどのボリュームを緑の丘の下に計画することになりました。

- 1. キャンパスの開放感を損なうことなく既存の風景を尊重する
- 2. 正門からキャンパス内への主要動線として広いオープンスペースを確保する
- 3. 緑豊かなキャンパスをめざす



(出典) 新附属図書館パンフレット